できることはたくさんある！
支援・応援の方法

受け入れて応援

●農家を受け入れる

津波や地震、原発事故により、自分の土地で農業を続けられない人の受け入れが、各地で行われています。被災地域の人たちを雇用したい場合、全国農業会議所・全国新規就農相談センターのホームページに求人情報を出すことができます。
㊐全国農業会議所・全国新規就農相談センター　☎03-6910-1133
http://www.nca.or.jp/Be-farmer/index.php

●避難者を受け入れる

被災地から避難してきた人たちは、慣れない土地で大きな不安を抱えています。近くに避難者がいる場合、なるべく声をかけましょう。ちょっとした心配りが、地域にとけこむきっかけとなります。

チャリティーで応援

●被災地の商品を購入する

被災地の商品を買うことも支援の一つ。JA全農の通販サイト「JAタウン」からも、被災地域の農畜産物を購入できます。
㊐JAタウン
http://www.ja-town.com/shop/f/f0/

●義援金付き商品を購入する

売り上げの一部が義援金として寄付される商品も数多くあります。『家の光』7月号で掲載した「心を結ぶミサンガ」の作製キットを購入すると、売り上げの一部が、JA全国女性組織協議会を通じて寄付されます。
㊐個人の方／日本ヴォーグ社
☎0120-923-258
㊐JAの方／家の光協会　教育文化部
☎03-3266-9011

●野菜や加工品を販売する

直売所や特設会場で、野菜や加工品を被災地支援のために販売する動きも盛ん。全国各地で、売り上げの一部や全額を、義援金として送る活動が行われています。

●募金をする

募金の窓口として、日本赤十字社などが代表的ですが、JA全国女性組織協議会でも、募金を受け付けています。集められたお金は、岩手、宮城、福島3県のJA女性組織に送金される予定です。
㊐JA全国女性組織協議会
☎03-6665-6242

行って応援

●がれき撤去をする

津波によって押し寄せた、がれきや泥の撤去作業は、まだまだ終わりが見えません。作業には、長靴や安全靴、合羽、ゴム手袋、マスク、ゴーグルなどの準備が必要です。また、夏場は脱水症状への備え、冬場は防寒対策も忘れずに。

●炊き出しをする

避難所や仮設住宅での炊き出しは、材料、調理器具を持参して行うのが基本。調理の下準備をしていくと効率的です。食中毒にも要注意です。

●洗濯をする

避難所では洗濯物が干しにくい……そんな女性の悩みに応えるために始まったボランティア活動も。宮城県仙台市や南三陸町などの被災者から預かった洗濯物を、登録したメンバーが洗濯、乾燥して返却しています。
㊐せんだい男女共同参画財団
☎022-212-1627

●読み聞かせをする

不安な気持ちになっている子どもたちの心を癒やす効果があるといわれる絵本や紙芝居の読み聞かせ。ただし、読み方、本の選び方などには細心の注意を払う必要があり、下記のインターネットサイトなどを利用し、事前に情報を集めるようにしましょう。また、(社)家の光協会でも、年に4回、読書ボランティア養成講座を開いています。
㊐saveMLAK（博物館・美術館・図書館・文書館・公民館の被災、救援情報）
http://savemlak.jp/
㊐家の光協会　読書・食農教育部
☎03-3266-9038

●話し相手になる 子どもたちの世話をする

多くの被災者が、悩みや寂しさを抱えています。そんな話に耳を傾けることは、大きな心の支えに。また、避難所などで子どもといっしょに遊ぶことも、だいじなボランティア。ともに、助けあい組織などでの経験を生かすことができます。

●励ましのために演奏をする

これから注目されるのが、音楽や歌、踊りによる励まし。ただし、タイミングは適切なのか、被災者がほんとうに望んでいることなのかなど、避難所の運営者などと、しっかり相談する必要があります。

●旅行をする

ゴールデンウイーク中に東北地方を訪れた観光客は、前年と比べおよそ40%減ともいわれています。旅行をして、東北の経済を活発にすることも支援の一つ。JAグループの(株)農協観光では、実際に現地を訪れる「元気を届けるツアー」を企画。また、被災地の農産物を、全国各地の旅館やホテルに泊まったさいに食べる「食べて応援しよう！ JA宿泊プラン」も行っています。
㊐お近くのJA旅行センターもしくはNツアー各支店まで

送って応援

物資を送るさいに、もっとも気をつけなければならないのが、送ろうとしている物が、現地でほんとうに必要とされているのかということ。個人で、少量の物資を送る場合は、避難所に直接問い合わせたり、インターネットのマッチングサイトなどを利用したりして、送り先を確定させるとよいでしょう。JAやJA女性組織単位で、大量の物資を送る場合は、受け皿となってくれる被災地のJAや市町村に問い合わせるようにしましょう。

マッチングサイト

被災者のニーズと、支援者の援助を仲介するインターネットサイト。被災者が必要としている物資を紹介し、それを見た支援者が、物資を送るという仕組み。

▷ふんばろう東日本支援プロジェクト
http://fumbaro.org/
☎070-5535-5447（平日9:00～18:00）
インターネット以外に、電話での問い合わせにも対応してくれる。

▷ボランティアプラットフォーム
http://b.volunteer-platform.org/
物資だけではなく、ボランティアのマッチングも行っている。